

平成25年1月22日

美里町長 佐々木 功悦 殿

美里町病院事業
改革プラン策定検討委員会
会長 伊藤 恒敏

平成23年度の美里町病院事業改革プランの実施状況の点検・評価について（報告）

このことについて、平成24年11月26日、美里町病院事業改革プラン策定検討委員会において実施状況の点検・評価を執り行なった結果、下記のとおり取りまとめましたので報告いたします。

記

1 美里町立南郷病院の果たすべき役割について

南郷病院は地域のなくてはならない病院として、十分に機能をはたしている。

また、大崎市との「定住自立圏の形成に関する協定書」に基づき、大崎市民病院との役割分担による充実した医療の提供を図る。

2 一般会計における経費負担の考え方について

平成21年度において繰り出し基準の内容が変わったが、改革プランどおり補助金1億8,000万円の繰入とした。

今後（後年度）においても町の財政計画に沿って対応する。

3 経営効率化に係る計画について

平成23年度の南郷病院の決算状況について

計画の損益は438万5千円の黒字であったが、災害復旧修繕費などで経費が増大したこともあり最終的に経常損益は、242万5千円の赤字となった。しかし、前年度の1,385万8千円の赤字を大幅に圧縮した。

病院事業改革プランで提示した数値目標との比較について

ア) 経常収支比率については、目標設定100.6%に対し、決算数値99.7%となる。(100%を超えれば黒字。) ほぼ目標を達成しているといつて良い。

イ) 医業収支比率では、目標設定83.4%に対し、決算数値82.7%となる。

(100%に近づけば良い数値。) 前年度よりも数値的に改善している。医業収益が増大したことが大きい。

ウ) 職員給与と費対医業収益比率では、目標設定58.7%に対し、決算数値55.0%と

なる。(低ければ良い数値。)目標を達成する。

エ)病床利用率では、目標設定82.0%に対し、決算数値81.3%となる。

(100%に近づけば良い数値。)ほぼ目標を達成している。前年度よりも数値的に改善している。

オ)入院患者数では、目標設定15,006人に対し、決算数値14,361人となる。

目標を達成することができなかったが、前年度と比較すると増加傾向で、2年続けて入院患者数は増加した。

カ)外来患者数では、目標設定33,800人に対し、決算数値27,337人となる。

目標を達成することができなかったのは、前年度に引き続き、常勤医師の退職等による不在期間の休診等が影響していると考えられる。また、近隣町村に整形外科が開業したことも、外科の患者数減少に影響していると考えられた。

平成23年度病院運営の分析・自己評価について

人口の減少、常勤医師の不在等による午後の休診(内科)近隣町村での整形外科医の開業等の種々の原因が重なり、外来患者の減少が大きい状況であった。何よりも常勤医師の確保が重要である。事務担当者および病院長は、日頃から経営分析につとめ、客観的に運営状況を把握し、その結果を経営改善に反映できるように努めることを切に要望する。

平成24年度以降の見込みについて

改革プランに沿った数値目標を目指し、地道に行っていく。医師確保について早期にどのように対応したら良いのかの検討を始めることとする。

病院事業改革プランの変更の必要性の有無について

特に無い。

4 再編・ネットワーク化に係る計画について

大崎市との「定住自立圏の形成に関する協定書」に基づき、医療に関する役割において実質効果が上がるよう、市町間の協力関係を強固にする必要がある。

5 経営形態見直しに係る計画について

現状(法一部適用)で、町民の医療を支える病院として機能すべきである。

6 医療の質についての自己評価について

経営内容を良くすることが必ずしも医療の中身が良くなるという意味ではなく、経営を良くして患者が困った状態にならないような指標を考えていかなければならない。そのための医師の確保が、重要な課題として対応策を講じていかなければならない。

以上